キリスト教保育

2024年9月1日発行（毎月1回1日発行）第666号

年主題
さあ、漕ぎだそう
奏でよう

論説
「共生社会の担い手を育む」を
保育の合言葉にしませんか②
久保山茂樹

小論
「動物と子どもの関わり」と
「動物の福祉」
谷田　創

2024 SEPT. 9

わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる。

聖書 口語訳聖書・ピリピ人への手紙4章13

「わたしを強くして下さるかた」

強くなりたい－それは、昔も今も変わらぬ、すべての人間の根本的な要求であろう。他のものを犠牲にし、あるいは他から奪うことによって強くなろうとするのは、本当の強さと言えないのではないか。厳しい、生きるたたかいの中で、人間は本当に強くなければならない。しかし、何において強くなるのか－力においてか、富においてか－。人間が人間として、本当に強くされるのは、物理的な力や数量ではなく、いわば、内面的な人格的な力によるのである。

人間の本当の強さ－利害や境遇に支配されぬ、そして他者を強め、豊かにさせるような－が指し示されねばならぬのでないか。聖書はそのことを告げているのである。「わたしを強くして下さるかた」－そのような人格、存在がおられる。私は弱い存在であり、なすべきことをなし得ぬ人間であるが、そのような私を見捨てず、常に共にいて、強くして下さるお方がおられる。それが信仰の力ではないか。また、愛の力ではないか。宗教教育の原点は、宗教的なしつけやノルマではなく、そのような人格的な愛の力こそ、根底になければならぬ。真実の意味で、自己の弱さを知り、謙虚にそこに立つことができるのは、本当に強いものと言えるのではなかろうか。それは、人間の強さではなく、神の力による強さ－わたしを強くして下さるかたによって与えられる－そしてまた、他の人の弱さを顧み、担うことのできる－に他ならないのである。

「何事でもすることができる」

パウロの体験によれば、貧にいて貪せず、富にあっておごらず－ありとあらゆる境遇に処する秘訣を心得ている、ということであろう。聖書のこの言葉は、あらゆる危機や困難、また誘惑に出会って、決して倒れず、誤またぬという、よい意味の自負や、更にどんなことでも不可能はないという超人的な力を意味するのではなかろうか。「何事でもすることかできる」とは、結局、他者のためにどれだけのことができるか、ということによって、決せられるのではないか。他の者のために、自己の生活や富や力をささげて生きる－そのような愛の労苦なしには、真に強くされた人間とは言えないのである。

私たちに託された子どもたちが、やがて、どのような人生の場面でも「わたしを強くして下さるかた」を持つことができるように－そのような人生へ導かれるよう、祈りたいものだ。

（田井中　純作・執筆　時・日本キリスト教団倉敷教会牧師）

1975年『キリスト教保育』誌９月号より

新共同訳では「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です」フィリピの信徒への手紙4章13節です。一部省略、要約してあります。

キリスト教保育

第666号9月号

年主題

さあ、漕ぎだそう
奏でよう

目次

幼子とともにキリストへ　2
〈巻頭言〉命の話　坂野尚子　3
〈論説〉「共生社会の担い手を育む」を保育の合言葉にしませんか②　久保山茂樹　6
図書紹介　佐治愛子　風見晴美　13
〈小論〉「動物と子どもの関わり」と「動物の福祉」　谷田創　14
聖書に聞く・お話　月下星志　18

【カリキュラム】
9月　月のねがい表
心にとめて　鈴木直江　21
実践報告　YMCA保育園ねがい　22
実践からの学び　稲付容子　24
子どもと賛美するために　30
心にとめて　加藤真央　31
実践報告　軽井沢幼稚園　32
実践からの学び　高田憲治　34
絵本のとびら　山内純子　40
私たちの園では　赤坂洋子　41
〈連載〉小さな庭だより　高浜真理子　42
〈連載〉日々、子どもたちから学んでいること　斎藤惇夫　44
目福口福耳福　広岡直太　48
子どもの祈り　51
礼拝のお話　唐澤健太　52
風　川島祥子　53
編集子　三ツ橋ゆり　63
連盟だより　64

カット　中畝治子　小鯛みのり　松成真理子　金井ユリ
表紙絵　田中槙子　裏表紙絵　菰田とみ子